

という治療法です。詳しいメカニズムはまだ研究過程ではありますが、アレルギー反応を「抑制」する細胞が確かに増えることもわかってきています。

そこで、三重病院でも1年半ほど前から、経口免疫療法をはじめました。これまで60名ほどの患者さんが治療を受けられ、全く食べられなかった食物が食べられるようになっていきます。ただし、アレルギーを起こす原因物質を食べるので、治療の過程で、ときには危険な誘発症状もおこります。ですから、入院での管理（ひとつの食品で約1ヵ月半）は必須です。到達できる摂取量には個人差がありますが、全然ダメだったのに食べられるようになり、私たち自身も驚くような変化です。しかし、まだ発展途上の治療法です

から、今後のさらなる研究・改善の余地はありますが、今、日本や世界のいくつかのアレルギー専門施設で取り組まれており、三重病院も積極的に行う施設のひとつです。

なかなか治らない食物アレルギーをお持ちの方で、治療に興味をもたれるならば、一度アレルギー科外来でご相談ください。（卵、牛乳、小麦、ピーナッツなどが主な対象です。エビ、カニ、ソバはメカニズムが異なる可能性があり、治療対象にはしていません）
（臨床研究部長・アレルギー科医長 藤澤 隆夫）



医療福祉相談室だより

医療福祉相談室には小さな図書コーナーがあります。

子どもの病気（難病・発達障害・こころの病気）に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。ソーシャルワーカーが面接中の時はお部屋に入れませんが、それ以外はいつでもかまいませんので外来・入院を問わずふらりのぞいてください。

今月のイチオシ

**「子どもは悪くない！
道に迷った子どもたちとやんちゃ和尚の心の交流」**
《廣中邦充 作／(株)日本標準》

大きな声と満面の笑みが印象的な著者は、愛知県岡崎市の西居院の住職です。現役の看護師である奥様と一緒に、不登校・虐待・非行・家庭内暴力などさまざまな問題を抱えた少年少女を引き取り暮らしています。子どもたちの「辛いよ、寂しいよ、助けてよ、こっち見てよ…」という心の叫びに、どれだけ大人は「大丈夫だよ。お父さん・お母さんがしっかり守ってあげるよ。」と応えられているでしょうか。

親だって支えが欲しい、生きにくい世の中かもしれませんが、住職の深い愛の喝が欲しい方、ぜひご一読ください。

（ソーシャルワーカー 高村 純子）



三重病院 外来糖尿病教室

10月開催のお知らせ

**「今日からできる
ながら体操」**

日差しが柔らかくなり、運動のしやすい季節になってきました。みなさん日頃どのような運動をされていますか？

今回の教室では、楽しく運動が出来、かつとても効果のある運動についてお話をしようと思います。

実際に身体を動かす予定ですので、運動のしやすい服装でご参加ください。



日時 ● 平成22年10月27日(水)
14:00~15:00

場所 ● 三重病院 研修棟
(外来棟玄関にむかって左側の建物です)

担当 ● 3病棟看護師

★関心のある方はどなたでも参加できます。当日直接会場にお越しください。参加費は無料です。

★お問い合わせは

059-232-2513 内科外来まで